

横浜市立永田小学校  
 人とのかわりを大切にする子 自分で考え行動する子 心身ともにたくましい子



# 学校だより 夏休み号

令和4年7月20日（家庭数配付）

## 「大きな財産」と「だれ一人取り残さない」

校長 足立 渉

新型コロナウイルスの第7波が猛威を奮っています。本校でも、日増しに体調不良者が増えていく状況を、歯痒い思いでいました。先日も第6波の県内の過去最多の感染者数を上回るなど収束の気配は見えませんが、せつかく始まった夏休みです。感染症対策を十分にとり、健康で安全、そして充実した夏休みをお過ごしください。



国際教室での学び

さて、私が子どもの頃の夏休みの話をします。小学校5年生の夏休みに入る前、交通事故にあいました。右足骨折と頭部を強く打ったことにより絶対安静も余儀なくされた事故でした。（またいつかこの時の話は学校だよりでします。）そのため、小5の夏休みと9月はほぼ全て入院生活でした。友達と約束していた釣りやラジオ体操、サッカークラブの練習も全てできなくなりました。病室にはテレビもありませんでした。そのため娯楽といったものがない生活でした。「ああ、友達は今何して遊んでいるのかな？」「天気がいいけど、外に行きたいな。」など、窓の外を見ながらずっとそんなことを考えていました。医師からも、「早く治したいなら、よく食べて、よく寝ること！」と言われていたので、とにかく眠っていました。（食事といっても初めは流動食だったので、よく食べるという感じではありませんでした。）少し経ち、安静期間が過ぎてベッドで起きられるようになったころ、担任の先生が来てくれました。「思ったより元気そうじゃないか！心配したぞ。」と言い、見舞いに本をくれました。「織田信長」の伝記でした。「字ばっかりの本なんて…」と初めは思いましたが、さすがに暇だったので手に取り読み始めました。夢中になりました。「歴史って面白い！」と思いました。次に先生が見舞いに来てくれた際に感想を伝えました。「お前がそう言うと思って次はこれだ！」と、今度は「豊臣秀吉」の本と「計算ドリル」を持ってきてくれました。「計算ドリルはちょっと…」と言うと、先生はこう言われました。「渉が休んでいるときにクラスで取り組んだ内容だけでもやってみる。わからないところは次の時に教えるから。」と。習っていない内容だったのでわからないことも多かったのですが、できるところを取り組みました。それでも理解できなかったところは、先生が来た時にたずねて学びました。そのおかげで、退院後の初めての授業も不安な気持ちが少なくてすみました。本当にありがたかったです。この入院で読書が大好きになったことは、私の「大きな財産」です。今でも、年間100冊近くは本を読んでいます。この夏休み取り組んだことが、何か一つでも自分の大きな財産となるといいですね。そしてもう一つ、休んでいた学習をドリルで追いつけるようにしてくれた先生のご指導は今でも忘れられません。そうした「だれ一人取り残さない」学校を、永田小は目指していきたいと思っています。（裏面にだれ一人取り残さないための取組「どこでもスタディ」について書いてあります。ご覧ください。）

～誰一人取り残さない学びの機会を～

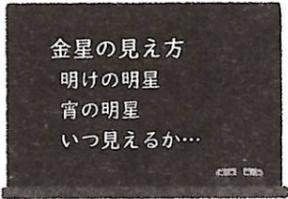
## 横浜は「横浜どこでもスタディ」に取り組みます

○ 様々な事情で学校に登校できない児童が、自宅でも授業に参加できるように、子ども自身が必要に応じて学ぶ方法を選べます！

・各学校が提供できる内容は、学校だよりや学校ホームページで情報発信します。

・実施に当たっては、児童の思いに寄り添い、保護者とよく相談し、本人の体調や家庭の通信機器の状況に応じて実施いたします。

### 【夏休み明け永田小の考える「横浜どこでもスタディ」】

児童の「学びたい」気持ちに応えます。	
例1	<p><b>オンラインで授業に参加！</b>                      児童と学校が調整をして、より効果的な場面や教科・時間を選んで実施します。</p> 
例2	<p><b>板書を撮影した写真や配付資料をアップ！</b>                      授業で先生が黒板に書いたものを自宅で見たり、配付された学習プリントなどを提出したりできます。質問なども口イロノート・スクールで送ることができます。</p> 
例3	<p><b>放課後に先生とつながろう！</b>                      放課後に、学習について質問したり相談したりするなど、先生と対面したり、オンラインを使ったりして対話ができるようにします。</p> 

\*上の内容はあくまでも例です。今後、他校の実践も参考にしながらできることを増やしていければと考えています。また、児童や保護者に無理強いするものではありません。あくまでも、児童の思いに寄り添ってできることを考えて参ります。ご承知おきください。